

2020年度 第6回 ライフステージ事例検討会 報告書	
日時	2020年12月1日(火) 17時45分～19時00分
開催施設 参加者数	金沢大学2名、福井大学1名、金沢医科大学0名、石川県立看護大学7名、信州大学6名、 金沢市立病院4名、石川県立中央病院4名、恵寿総合病院2名、公立松任石川中央病院7名、石川県済生会金沢病院0 名、 厚生連高岡病院0名、高岡市民病院0名、富山県立中央病院5名、市立砺波総合病院0名、富山県済生会高岡病院0名、 富山県済生会富山病院3名、黒部市民病院4名、富山赤十字病院2名、 飯田市立病院0名、諏訪赤十字病院6名、福井県立病院14名 会場参加 計67名 その他 個別のオンライン参加 計43名 合計110名
テーマ	「浮腫の悪化により在宅療養が困難となった高齢患者との関り～浮腫ケアを通してその人らしさをつなぐ～」
発表者	富山県立中央病院 時山 麻美さん
<p>【意見交換内容】</p> <p><支援検討に際し患者の状態に関する質問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「デイサービスは今回介入前から通っているのか、今回導入したサービスなのか」という質問がされた。それに対し、「介入前から継続して利用していた」との回答があった。また「デイサービスには看護師はいるのか」という質問に対し「いる」との回答があった。 ・リンパ浮腫外来中断理由は何かという質問に対し、「支障なく生活できていたから」との回答があった。 ・これまでのデイサービスでの介入計画や連携、情報共有の方法に関する質問がされた。それに対し、「浮腫悪化に伴って、ケアマネと一緒にきてほしいと言っていたが、本人は『言っとく言っとく』と言ったのみでケアマネは来なかった(本人から伝わっていなかった様子)」との回答があった。また、関連して訪問看護等の在宅サイドの多職種連携については、「弾性包帯の巻き方や注意点、メドマーの有効利用するための情報については、退院時カンファレンスの際に実演し、動画で撮影し各スタッフへ周知された」との回答があった。 ・自宅での生活では端座位の時間が多いことに関連して、いつも過ごす場所や寝室等住宅環境はどうかという質問がされた。それに対し、「普段過ごす場所は台所であり、そこが家の中心となる。寝室も近いが、仰臥位から起き上がりにくい(ベッドか布団か、なぜ起き上がりにくいのかは不明)ため寝室にはあまり行きたくない思いがある」との回答であった。この点は訪問看護師からの発表内に詳細がある。 ・家族背景に関する質問があった。それに対し、孫については、「20代男性、女性の2人がおり、女性は結婚し行き来できる距離に住んでいる。妊娠中であり、本人もひ孫を楽しみにしていた」との回答であった。子供については、「長男は夜勤のある仕事(16時～9時)であり、まき直しは難しい。以前の軽度圧迫のときはできていた。本人は手伝わせたくないという思いがあった。パット交換はしてもらっていた。」との返答があった。 ・退院後に必要なケアは何かという質問があった。それに対し「清潔保持が一番の課題。また少しでも挙上時間があると軽減するため、そちらを見守る必要がある。」との回答があった。 ・介護保険の変更申請については、「検討したが上がらない状況」との回答があった。 <p><退院支援の実際>(担当訪問看護師より発表)</p> <p>目標は【日常生活を継続しつつ浮腫増強させない、傷をつくらないこと】であった。そのために、以下のケアを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護師→清潔と日常生活の確認や調整(下肢挙上を取り入れた生活習慣) ・デイサービス→入浴(清潔ケア)、圧迫療法(まき直し含む) ・訪問マッサージ→圧迫療法(まき直し)、浸出液多量時のガーゼ交換 <p>誰もができるケアできる包帯へ変更し、動画で周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族→日中長坐位や臥位になるよう声掛けする <p><在宅でのケア調整の実際>(担当訪問看護師からの発表)</p> <p>在宅での生活を開始した後、活動量の増加、活動により包帯が緩まることで、本人がきついという感覚から包帯を緩めてしまうことがあった。そのため、浮腫の増加があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前よりは増加速度は緩やかであり良い状態を保っていると言える。 ・受診時に包帯変更を行っていた。 <p>活動を制限し、浮腫のケアに専念すれば、浮腫はもっと改善できたと考えられるが、本人は下肢が細くなって楽になり満足されていた。家族のために活動したい思いを大切にしたいというジレンマは生じるが、浮腫の状況を経過観察しながら本人の望む生活を維持できるよう支援するという方向である。</p> <p><リンパ浮腫支援に関する質問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「費用的負担(リンパ浮腫外来、ストッキングや包帯)への支援はあるか」という質問があった。これに対し、助成については「子宮全摘は療養費の対象になる。装着指示書にて後期高齢者は1割負担で済む。健康保険に問い合わせるとよい」との回答があった。また「廃用性、低アルブミン性の浮腫であれば、市販のもの安価なものを勧めることもある」との回答であった。 ・「リンパ浮腫は長期のセルフケア能力維持する必要があるが、浮腫を抱える人と関わる時、セルフケア能力維持のために工夫していることはあるか」という質問があった。それに対し「浮腫は悪化したり改善したりするが、悪い面を伝えるのではなく、良い面を伝え、さらにこうするともっといいねという伝え方を。あれもだめ、これもだめでは何のために病院に通っているのかわからなくなるため、対話しながらケアを勧める」との回答があった。 ・「弾性包帯のスタッフ指導さえ難しい。指導で苦労したこと、工夫したことは何か」という質問に対し、「外来で行っているようなボリュームを減らす集中排液期のやりかたは難しいため、シンプルなケアすることを心がけた。どれくらいの圧で巻いたらよいかわかりやすくなるよう、ガーゼ包帯→軽く足に添わせるリフレックスループ(ガーゼのつぶつぶしたもの)に変更した。普段は、スタッフへの指導は一緒に行うが、今回は動画を撮り周知に利用した。患者のADL認知機能低下も考慮せねばならない」と回答があった。 ・リンパ浮腫ケアの専門家が当院にはいないため、自分らで行う必要があるが一般的に配慮する点はどのようなことか。という問いに対し、「見よう見まねは難しく、最初はだれもが習得困難である。リンパ浮腫を得意とする男性包帯ストッキングコンダクターと一緒に考えてやるしかない。連携しながらやる必要があるため、コンサルすることをお勧めする。安全にケアするという点では、医師との協議(禁忌など)し他職種で相談しあってやるのが重要であるとの回答であった。 	
ミニレクチャー	「浮腫の原因を見極め悪化を防ぐケアのコツ」